

鹿児島支部の活動

1 はじめに

「この教材だと、子どもはどんなことを考えるのだろうか。」「この素材は、教材としてどのように生かしたらよieldろうか。」そんな思いをもって鹿児島支部は、約30名で活動しています。平成19年度の若手教員研修会の開催に続き、本年度は、九州ブロック研修会を開催しました。この研修会を機に鹿児島支部を発展させようと、月例会では「教材開発と子ども」を中心に研修を深めてきました。

そして、ブロック研修会では九州各県の先生方の参加を得て、桜島の噴煙に負けない活気のある研修を行うことができました。以下、鹿児島支部の活動を九州ブロック研修会の取り組みを中心に紹介します。

2 九州ブロック研修会に向けて

九州ブロック研修会の開催に向けて平成20年度から、支部研修会を定期的に行い、準備してきました。

まず、今回の学習指導要領の改訂において、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な見方や概念を柱としたことから、それぞれの概念において各学年のどこにどのような問題点があるのかという検討を始めました。

その結果、「エネルギー」においては、電気に関する単元全体の概念のつながり、「粒子」については、とけるということの理解、「生命」は6年生の人体において、血液を中心とした循環に関するイメージの複雑性、「地球」は、6年生の「大地のつくり」における火山や地震による土地の変化のモデル実験の方法を課題として整理しました。

これらの課題を基に、ブロック研修会では、実際に指導したい教材について検討をしていくことにしました。そして、教材を検討する際、子どもの実態に関する視点、単元のねらいに関する視点、どのように使って指導するのかという視点を大事にすることにしました。そして、研修会を机上の空論にならずに実りあるものにするために、実際の物を扱って考えをまとめていくよう研修の方法も工夫しました。

3 九州ブロック研修会

テーマ

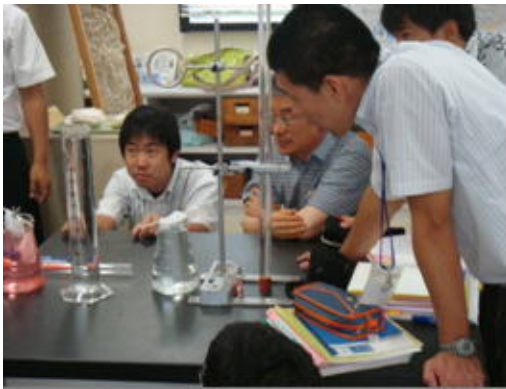
新学習指導要領に対応した理科学習指導の在り方 ~ 概念形成に迫る教材・教具の工夫・開発 ~

H21.8.4~8.6

(1) 基調提案・講演

鹿児島支部から教材・教具の開発についての提案をし、その後、広島大学大学院教授角屋重樹先生に教材に対するとらえ方、各概念に関する学習で育てたい見方・能力、今回の研修会の評価のポイントなどについて講話をしていただきました。

(2) 班別研修



班別の研修では、実際に教材を作成したり、それぞれの教材を用いて模擬授業を行ったりして、活発に議論が交わされました。



もちろん、教材作成にとどまらず、その背景にある概念と学習内容のつながりや、「その教材を用いることで子どもはどんな力を身につけられるのか」、「どうし

てその教材なのか」といったことも議論を深めていきました。

(3) 発表

班ごと模擬授業で発表したり、人の動きで物質の循環を理解させるモデルを動作化したり、パソコンや動画で示したりするなど様々な工夫を凝らした発表でした。おわりに、九州各県の先生方が協力した成果の発表をしました。



総括として、本大会で次のような知見を見いだせたと考えています。

既習学習事項を生かすことができる
認識を系列化する単元構成

「粒子」の視点で観察する単元構成
キー概念の発見とその教材化（身体を使う教具の開発）

認識システムの展開を変える教材開発

3 今後に向けて

今回の研修会で盛り上がった支部の高まりを基にし、さらに今回の成果を検証し、より効果的な教材へと修正していきたいと考えています。